

2022年度 第2回運営委員会議事録

- 日 時 : 2022年6月14日(火) 14:00~16:00
- 場 所 : サプリ村野 環境保全研修室
- 出席者 : 井上、丸井、末岡、赤井、市山、阪口、重村(枚方市)、豊高、藤原、宮村、
- 欠席者 : なし
- 議 長 : 末岡 ■議事録作成 : 事務局
- 配布資料 : ・事務局報告 4-6月
・温暖化対策推進ミーティング第2回議事録
・環境教育部会 5, 6月度定例会報告

1. 報告事項

① 事務局報告

- ・緑のカーテン 150世帯配布予定だったが、納品数が900株だったため、募集定員を大幅に上回る195世帯に配布した。
- ・近畿建設協会からの環境啓発事業への助成金20,600円が決定した。
他議事録通り

② プロジェクトチーム・部会報告

◆地球温暖化防止対策推進チーム報告

議事録通り

- ・省エネなどエコライフの相談コーナーの開設を検討。
- ・ゆるやかにライフスタイルの変換を促すのが目的。

◆環境教育部会

議事録通り

- ・学校訪問の時、4年生の担任の先生へアプローチできると依頼が増える。
- ・学校において、教師間での情報共有はあまりなされていない様である。(例: 4年生で、前任者からの引継ぎなどはあまり無いようであった)
- ・環境出前授業実施希望時間について、部会員が動きやすい時間を希望する事などを話しあった。
- ・6月は環境出前授業3回実施。

<主な意見>

- ・積極的に学校へアプローチされているが出前授業実施回数が足りないという感じなのか。
⇒ 部会長としては物足りなさを感じているが、部会員はそれぞれ事情もあるので、
ほどほどがいいのかもしれない。

◆公共交通部会

- ・部会が明日なので議事録はないが、8月に「バスバックヤードツアー」を計画している。7月の広報ひらかたに募集が掲載され、申込は7月1日から専用フォームで受付。今回はチラシを作製せず、広報ひらかたのみで募集。
- ・交通タウンマップを広報に挟んで全世帯に配布することを検討中。

◆自然エネルギー部会

19日にミーティング開催予定。今年度、自然エネルギー学校として、講演会、見学会など、具体的な内容を決める予定である。また、できれば今後、地球温暖化の実態及び、カーボンニュートラルに向けた動きについての知見をまとめ、提案書として行政へ提出できればと考えている。

2. 協議事項

① 会員交流会について

総会の時に「部会員以外の方との交流がほとんどない」という意見も出ており、コロナ直前に計画していた実施できなかった会員交流会を実施していきたい。その第1回目として7月にボウリング大会を開催してはどうかと考えている。意見をいただきたい。

<主な意見>

- ・誰が主体となって進めるのか ⇒ 事務局で行う。
- ・一番出席しやすいのは飲み会ではないか。お花見やバーベキューなどもよく行われる。
⇒今後いろいろな形で実施計画していくが、とりあえずコロナへの配慮や開催準備負担の少ない形でとりあえず一度開催してみようと思う。

<結論>

7月ボウリング大会で承認された

② くらわんか塾について

総会で緊急議案として上程したように、補助金の関係で今年度はくらわんか塾を開催しないといけない。そこで、今年度は全体事業として「環境講座」としてのくらわんか塾の開催を検討している。

<主な意見>

- ・環境カウンセラーとして、再生可能エネルギーの基本的な話はできる。
- ・基本的な説明よりもう一步進めた、関心のある方対象の講演会の方がいいのではないか
- ・くらわんか塾の主旨、狙いは何か。
⇒啓発活動である。
- ・当法人に興味をもって活動に参加してもらうために活動紹介なども含めPRする場としてはどうか。
⇒そういうことは、環境スターター講座で行っている。ミニ講座やバスのついでスタンプラリー、myゴーヤが団体への入り口となっているが、くらわんか塾の最後にもPRを入れることも検討する。
- ・このくらわんか塾は、今期限りなのか、毎年継続するのか。
⇒それは、この運営委員会のみんなで考え決めることである。補助金の関係で秋までには決める必要がある。
- ・補助金を出している市からの要望は？
⇒環境政策課でよく話しているのは、興味のない人に来てもらうためにどうしたらいいかということである。
- ・枚方市でフードドライブという企画を始めると聞いているが、具体的にどういうことをするのか。
⇒工場や店舗で廃棄されるものを必要な人に届けるという取り組みは、環境に興味のな

い方へも満足感をもってもらいやすい事業である。

- ・そういう意味では、当法人のリユースコーナーは興味のない人にも来ていただけて、大変喜んでいただけて、環境啓発もできて、ごみ減量にもつながるといふ、とても意義のある事業である。

③ 収益事業について

単年度赤字予算となっているため、対策の一つとして収益事業の検討が必要ではないか。シニア向けの大学校などは高額な授業料をとっている。

<主な意見>

- ・講座の参加費を徴収すればいいのではないか。
- ・興味のある方を対象としたより深い内容でお金を払ってでも参加したい内容にする。
- ・くらわんか塾は S-EMS 審査員の資格がもらえるということで応募した。その縁でひらかた環境ネットワーク会議で活動するようになった。受講生のメリットが明確であればお金を払う。そのあたりのマーケティングが必要ではないか。

<結論>

各自引き続き検討する。

※次回運営委員会・・・7月 12 日(火) 13:30~15:00(時間変更)